

# 令和3年度さいたま市水道事業会計決算の概要

## 1 決算のポイント

### ■ 令和3年度の主要な取組

重要施策事業として水道施設整備事業を推進しました。特に、老朽施設の更新や耐震性の向上など、信頼性の高い安心な水道の構築を目指しました。

#### 水道施設整備事業

老朽管更新、配水管布設、深井戸の更新など、水道施設の整備に取り組みました。

### ■ 基本業務量

項目		令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年増減
給水件数	件	616,125	623,234	632,846	9,612
年間総給水量	m <sup>3</sup>	132,432,520	136,094,440	136,261,700	167,260
受水	m <sup>3</sup>	119,852,830	119,937,290	121,617,410	1,680,120
地下水	m <sup>3</sup>	12,579,690	16,157,150	14,644,290	△ 1,512,860
1日最大給水量	m <sup>3</sup>	387,390	410,300	396,870	△ 13,430
1日平均給水量	m <sup>3</sup>	361,837	372,861	373,320	459
年間総有収水量	m <sup>3</sup>	126,316,338	129,583,851	129,887,056	303,205
有収率	%	95.4	95.2	95.3	0.1
料金収入(税抜)	円	26,798,808,987	26,952,652,074	27,105,390,356	152,738,282

有収率とは、年間給水量に対する年間有収水量の割合を示すもので、水道施設を通して供給される水量が、どの程度収益につながっているかを表す指標です。

### ■ 水道水をお届けするための収支(税抜)

(単位:千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年増減
収益的収入	30,528,475	30,508,831	31,036,871	528,040
収益的支出	25,965,949	25,708,653	25,805,437	96,784
収支差引	4,562,526	4,800,178	5,231,434	431,256

### ■ 施設を整備するための収支(税込)

(単位:千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年増減
資本的収入	1,479,299	3,521,710	3,804,006	282,296
資本的支出	15,764,576	17,566,244	16,576,541	△ 989,703
収支差引	△ 14,285,277	△ 14,044,534	△ 12,772,535	1,271,999

不足額については、損益勘定留保資金や純利益などで補填しました。

損益勘定留保資金とは、減価償却費など実際に現金の支出がない費用の計上によって生じた資金のことです。

■ 損益計算書

(単位:千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年増減
水道事業収益	30,528,475	30,508,831	31,036,871	528,040
営業収益	29,147,229	29,146,934	29,665,818	518,884
営業外収益	1,368,503	1,351,943	1,356,370	4,427
特別利益	12,743	9,954	14,683	4,729
水道事業費用	25,965,949	25,708,653	25,805,437	96,784
営業費用	24,983,551	24,846,549	24,919,356	72,807
営業外費用	981,742	860,306	749,254	△ 111,052
特別損失	656	1,798	136,827	135,029
当年度純利益	4,562,526	4,800,178	5,231,434	431,256

当年度純利益は、水道管や施設の更新などのための財源として使用します。

■ 貸借対照表

(単位:千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年増減
資産	221,015,096	223,987,380	225,674,242	1,686,862
固定資産	202,814,710	205,642,591	207,557,584	1,914,993
流動資産	18,200,386	18,344,789	18,116,658	△ 228,131
負債	83,335,084	81,507,190	77,962,617	△ 3,544,573
固定負債	42,772,346	41,124,012	40,068,392	△ 1,055,620
流動負債	11,142,622	11,790,346	10,112,152	△ 1,678,194
繰延収益	29,420,116	28,592,832	27,782,073	△ 810,759
資本	137,680,012	142,480,190	147,711,625	5,231,435
資本金	124,452,618	129,755,596	134,318,122	4,562,526
剰余金	13,227,394	12,724,594	13,393,503	668,909

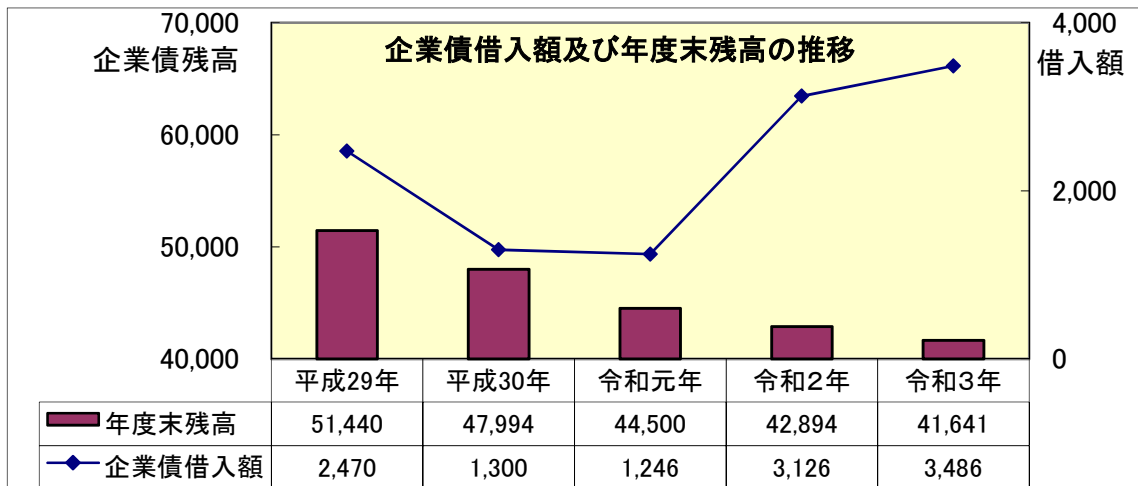
■ キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度	前年増減
資金期首残高	15,427,896	13,845,657	14,248,680	403,023
資金増減額	△ 1,582,239	403,023	△ 589,604	△ 992,627
業務活動による キャッシュ・フロー	12,785,587	12,446,582	12,813,441	366,859
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 10,794,229	△ 10,347,854	△ 12,057,381	△ 1,709,527
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 3,573,597	△ 1,695,705	△ 1,345,664	350,041
資金期末残高	13,845,657	14,248,680	13,659,076	△ 589,604

■ 企業債残高

(単位:百万円)

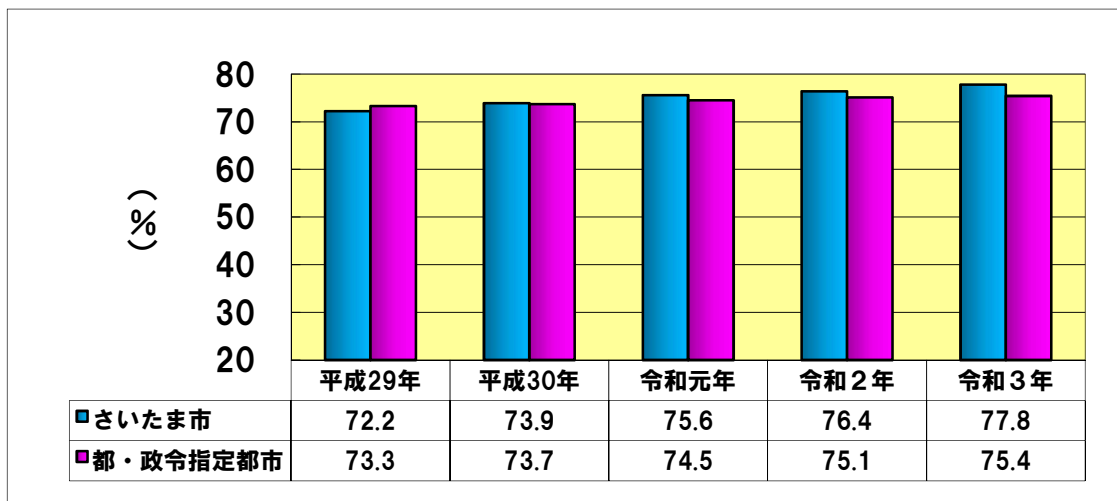


企業債残高は減少傾向にあり、令和3年度は約13億円削減しました。

## 2 財務分析

令和3年度決算の代表的な経営分析指標を、都・政令指定都市の平均値と比較します。

### ■ 自己資本構成比率

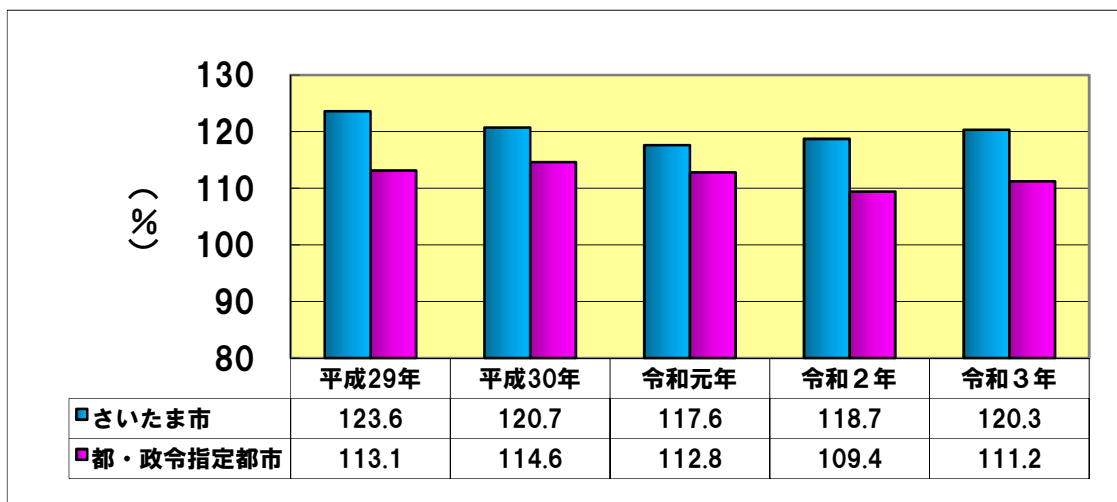


自己資本構成比率

総資本(負債・資本)に占める自己資本の割合。  
財務的健全性を示す指標の一つです。

さいたま市の自己資本構成比率は、企業債の削減に努めるなど改善を続けた結果、平成30年度から都・政令指定都市の平均を上回り、令和3年度も継続して上昇しています。

### ■ 総収支比率

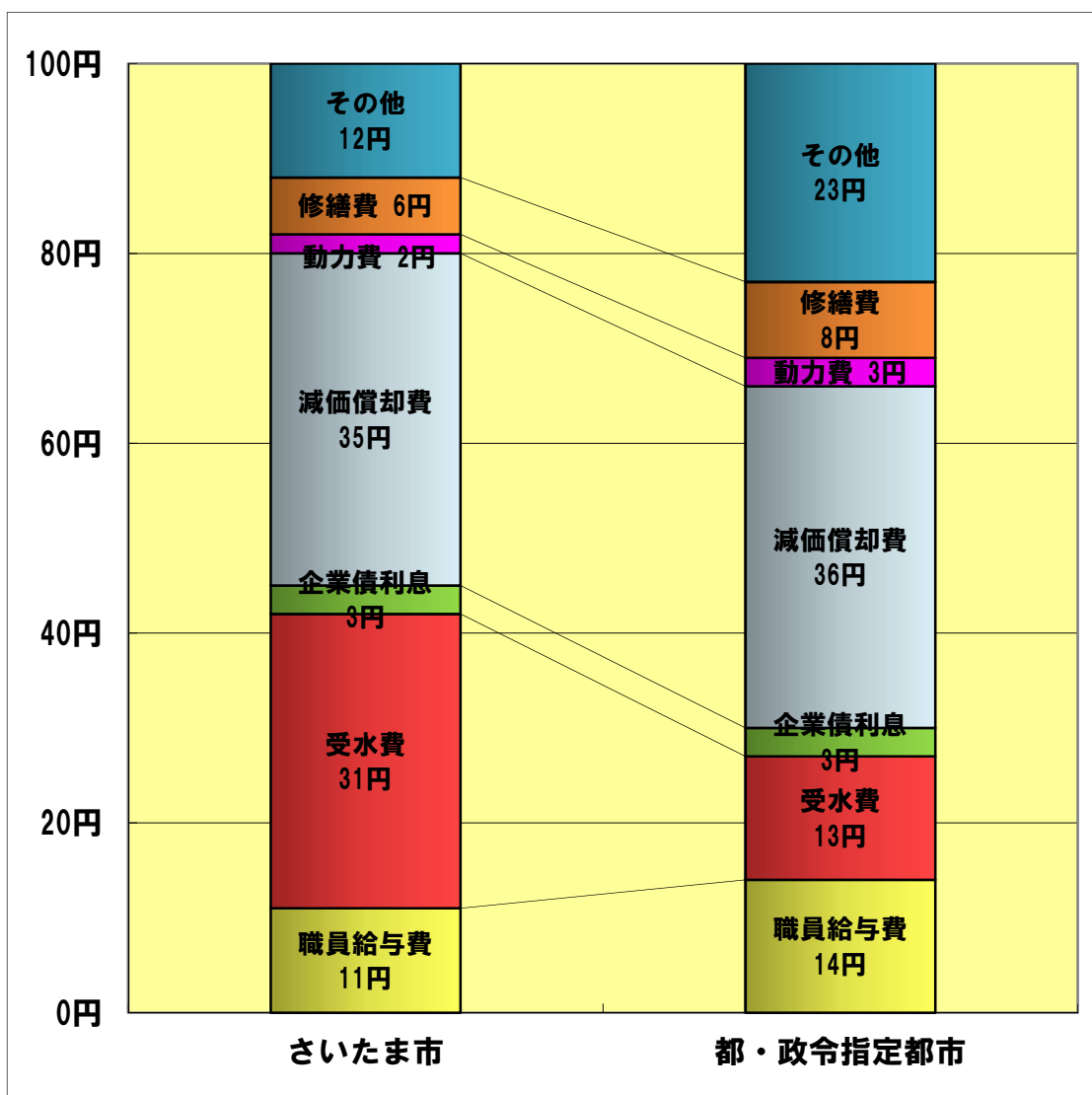


総収支比率

総費用に対する総収益の割合。  
総費用が総収益によってどの程度賄われているかを示すものであり、100%未満の場合は、収益で費用を賄えないことになります。

さいたま市の総収支比率は、都・政令指定都市の平均に比べて高くなっており、指標も100%を超えていることから、一事業年度の経営成績は良好といえます。

■ 水道料金100円当たりの使われ方(税抜)



上図は、さいたま市の水道料金100円当たりの使われ方を、都・政令指定都市の平均と比較したグラフです。

職員給与費は、水道局職員の人件費です。業務状況の違いもありますが、都・政令指定都市の平均と比較して、さいたま市の方が低く抑えられています。

受水費とは、自己水源だけでは不足する水を他団体から購入する費用です。さいたま市は給水量の約89%を埼玉県営水道からの受水で賄っています。そのため、都・政令指定都市の平均と比較して大幅に高くなっています。

減価償却費が上のグラフの中で占める割合が高くなっているのは、耐震化事業や老朽管更新事業等を推進したためです。

修繕費は老朽化した水道施設の更新や耐震化などの諸政策の推進により、横ばいで推移しています。